

第8回講座 1月 19日(土)

まとめ 生活環境科この1年を振り返って

第1回講座

- ・地域に大きく貢献されている話で、実際にたくさんのお客さんが来られ、村おこしをされているので素晴らしい。
- ・後についていく人は大変だろうと思った。
- ・地産地消で経営されており、身近に良いものがたくさんあることが分かった。
- ・町内には、人・物・食材もたくさん埋もれていると思う。それらを結集させれば効果のあるまちづくりができると思う。
- ・自分の人生の「いきいき」について考えさせられた。
- ・藤原さんはバイタリティのある人だと思った。

第2回講座

- ・リラックスして楽しめた。金魚について、もっと歴史なども勉強できる資料館に行きたかった。
- ・金魚だけでなく、歴史ある城下町だと発見できた。
- ・町並み保存は20～30年前からの計画で、年数を経てやっと形になってきたそう。
- ・金魚が水路にいてよかった。自然の多可町を謳うなら、多可町でも自然のもの（梅花藻・芹など）を自生させる運動をしては。魚の住める川になればいいと思う。
- ・郡山城の石垣は、急ピッチでお地蔵さんなどの石もかき集めて作られていて、当時の権力者の勢力の大きさに驚いた。

第3回講座

- ・ケアマネージャーさんとして、考え方も新しく感心した。人柄にも惹かれました。
- ・筆記して、実際に家でもしたかった。
- ・「継続は力なり」と言うが、上手な「仕方」も大事だと思った。

第4回講座

- ・久しぶりに手足を動かし、色々教えていただき良かったです。
- ・自分ではなかなか出来ないが、講座で皆さんと一緒に大変楽しく勉強できた。

第5回講座

- ・こんにゃくを芋から作る経験ができ、新鮮で楽しかった。
- ・こんにゃく芋の苗は知っていたが、芋は初めて見られてよかった。こんにゃく作りに使える芋になるまで3年もかかることに驚いた。
- ・手作りこんにゃくは、いただいて食べることはあったが、実際に自分で作る経験は初めてでした。

第6回講座

- ・丹波の恐竜発掘現場見学は、地球はぐるぐる巡ってるんだなと、地球の変遷にロマンを感じた。
- ・日本や世界でも珍しい発掘で、関心を持って見たい。三田市では発掘された骨が保存されていたり、隣町での発掘でもあるので、多可町でも情報が分かればいいな。
- ・1億何千年も前の地層を見て、地震や火山など自然の威力はすごいと思った。
- ・大阪万博以来、初めて万博へ行ったのでなつかしかった。太陽の塔は、今見ても感動した。

第7回講座

- ・多可町内でも初めて行ったところが多く、住民も見てまわり、もっと知ってほしい。ふるさとを大切に作る気持ちを持って、美しい多可町をつくりたい。
- ・知らないところがいっぱいある。語り部ボランティアを有効に活用し、情報を提供することが必要。
- ・ウォッチング号の町外の人向けがあってもいいのでは。
- ・広報はページ数が多く、必要は情報がわかりにくい。もっと関心を持ってもらえる工夫が必要では。
- ・ポラロイド版の広報誌もあるが情報量も少なく、やはり今の多可町のような広報が見やすい。
- ・大石良雄（内蔵助）と同じ地を踏んでいることに感動を覚えた。多可町の人に多可町を知ってほしい。
- ・武嶋山は登りやすくて良かった。荒田神社は、拝殿も素晴らしかったが、本殿や幣殿の銅板の屋根は特に素晴らしかった。

その他（一年間の感想及び提言（提案）に向けて）

- ・多可町の方向性を、町長が住民とともに模索し、住民も自覚を持ち行政と住民が一緒に進んでいければ。
- ・都市と農村、互いにより良い経験を重ねられればと思う。現在は、都市から来られた方に提供する方が多いと感じる。
- ・自分から出てどんどん体験できた。ただ教えてもらうばかりでなく、自分から出来ることを考えたい。自分たちから発信できることがあれば。
- ・合併し新しく広がった町を、住民自らが自分たちの町として自覚し、知っていくことが必要。
- ・それぞれの「区」のものではなく、「町」のものと認識し、情報発信していきたい。私たち一人ひとりが関心を持つことが大事。自分の町を知ることが第1。その上で町外へ情報発信できれば。
- ・観光地以外を訪れ、地元のガイドさんから説明を受けるのは良い経験。
- ・多可町の素材を、もっといろんな事に活用しないともったいない。周りの人を引っ張って、次の世代に自然豊かな多可町を残すにはどうすればよいか。
- ・町内には様々な講座があるので、情報収集、情報提供を徹底し、上手に活用したい。
- ・まず参加することが大事だが、目的意識を持つなど参加の「仕方」も大事ではないか。